＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470300615
法人名	医療法人社団伊純会
事業所名	グループホーム シエル 西横浜
訪問調査日	平成 19 年 9 月 4 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 22 日
評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成 19年 10月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	1470300615
法人名	医療法人社団伊純会
事業所名	グループホーム　シエル　西横浜
所在地	神奈川県横浜市西区久保町2-11　ラ･トゥール西横浜1F･2F （電　話）045-232-8221

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成19年9月4日	評価確定日	平成19年10月22日

【情報提供票より】（ 19年　7月　23日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	17　人
職員数	15人	常勤　11人，非常勤　4人，常勤換算	9.3人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	7 階建ての　1 階　～　2階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	67,000　円		その他の経費（月額）	74,000+光熱費　円	
敷　金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　200,000　円）		有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250　円	昼食	400	円
	夕食	450　円	おやつ	200	円
	または1日当たり　　円				

（4）利用者の概要（ 7月　23日現在）

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	6　名	要介護2	6　名		
要介護3	4　名	要介護4	0　名		
要介護5	1　名	要支援2	0　名		
年齢　平均	85.3 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	聖隷横浜病院、医療法人伊純会診療所スカイ、そえだ歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◆横浜駅にほど近い商店街にあり、7階建ての屋上からは「みなとみらい」の花火が見え、毎年家族や地域の方との交流の場になっている。グループホーム専用の屋上には人工芝を敷き、昼食や気分転換の場にもなっている。
◆2週間の体験入居期間を設け、入居希望者の心理面等の負担の軽減に配慮している。
◆利用者の日頃の生活の様子を家族に伝えるため、個別に近況を伝える手紙を写真と共に毎月送付している。家族の来訪の折に自然と目に触れられるように、壁に写真を貼り出している。
◆法人グループの診療所で健康管理を行っており、24時間相談できる医療機関を確保している。また、新入職員研修にあたっては、法人グループの老人保健施設において実施し、レポートを提出することで、自ら考えるケアを教育している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価は今回で3度目である。前回の評価で取り組みを期待されていた地域との連携については、平成１９年７月に第１回運営推進会議の開催を契機に、地域との連携に努めていく意向である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価には、職員一人ひとりが全項目について自己点検し、話し合いを通してまとめた。自己評価により事業所としての課題を抽出し、さらに改善に取り組みたいと考えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	7月に第1回の運営推進会議を、利用者、利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席で行った。ホームからは活動の報告を行い、町内会の掲示板の使用許可や回覧板への参加やボランティアの募集のことなどを話しあった。次回の開催は10月を予定している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映（関連項目：外部7，8）
	1ヶ月に1回、近況や生活記録を個別に書いて家族に送っている。家族の来訪時には口頭で暮らしぶりを報告している。また、家族来訪の際や、運営推進会議で家族の意見を出してもらうよう呼びかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	花火大会の日には、屋上を開放して近所の方を誘うなど、地域の方との交流に努めている。日頃より地域との関係づくりの必要性を認識し、今後はボランティアの受け入れなど、運営推進会議を通じて、地域との連携について取り組んでいく意向である。

2. 評価結果(詳細)

(▭ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人グループの理念であるＳＫＹ(スカイ)スロー、カインドネス、ユアセルフをもとに、グループホーム独自に「笑顔につながる生活を目指し」「ゆっくり急がず」「おだやかな毎日をサポートする」を、グループホーム開設時に作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「運営理念」はＡ４の用紙に大きく印字され、職員や外部の人にも目に付くよう各ユニットの事務所の壁に掲げている。職員は管理者と共に普通の会話を通じて、家庭的でその人らしく笑顔のある暮らしをサポートしている。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、商店会の会員となっている。日頃より地域との関係づくりの必要性を認識し、今年の花火大会の日には、屋上を開放して近所の方を誘い、地域の方との交流に努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で3度目の外部評価であり、今までの評価結果は利用者家族に送付し、グループホームの玄関に誰でも閲覧できるように置いてある。今回の自己評価は職員と共に取り組みまとめ、さらに改善に取り組みたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月２４日に第1回運営推進会議を、利用者、家族、町内会長、民生委員、包括支援センター等の出席で開催した。ホームからは活動の報告を行い、掲示板の使用許可や回覧板への参加やボランティアの募集のことなどが話題になった。次回の開催は１０月を予定している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給の利用者がいるので、市と連絡を密にとっている。以前は市の介護教室を開催したことがある。県認知症高齢者グループホーム協議会及び横浜高齢者グループホーム連絡会に加盟し、交換研修などいろいろな研修に参加している。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には1ヶ月に1回、請求書送付時に利用者の近況や生活記録を個別に書いて送っている。行事の写真も同封することもある。面会時にも暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が寄せられたことがあったが、その際に家族の希望・要望のアンケートも実施した。家族面会の際や、運営推進会議で意見を出してもらうよう呼びかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんどの職員はフルタイムで働いている。新人職員は利用者に紹介する場を設けている。退職する際は引継ぎを大切にし、利用者にも辞める事を前もって伝えている。お別れ会を行い馴染みの職員との写真を大切にしている利用者もいる。辞めた職員の訪問も時々あり、利用者が喜んでいる。あまり異動がないように、法人に働きかけている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は法人の研修を受け、新人レポートを提出している。外部研修のレポートは、いつでも見えるところに置いている。研修計画としては、県認知症高齢者グループホーム協議会や横浜高齢者グループホーム連絡会の研修会が主となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協議会及び横浜高齢者グループホーム連絡会に加入し、西ブロックの3つのグループホームで、居室の空き情報の交換をしているほか、3つの事業者で行政を交えて話し合いの場を持っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族にホームに来てもらい面接を行っている。1度では不安のある人は2、3度と面接を行い、それでも不安のある人には2週間の仮入居をしてもらっている。ほとんどの場合そのままの入居になるが、仮入居後になじめないため辞退するケースもあり、無理強いしないことを心がけている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員が多いので、調理の方法や古い習慣を教えてもらう場面が多い。昔の慣わしは利用者が主役になってもらうよう配慮している。職員が利用者から「暗いから気をつけてお帰り」や「頑張ってね」などと言葉をかけてもらうことがあり、支えあう関係になっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントや入居後の観察によって、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。職員は事あるごとに利用者の言葉や思いを聞き、「気付きシート」やケア記録を個別に作成している。担当職員を3ヶ月ごとに変え、特定の利用者だけにかたよらないようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎日10分間、日替わりで一人の利用者のミニカンファレンスを行っている。一人の利用者に対し、1ヶ月に3度はカンファレンスを行い、結果を「気づきシート」に記入している。また「モニタリング用紙」にも記載をし、次の介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは「モニタリング用紙」に記入し、新しい情報を取り入れている。介護計画の見直しは3ヶ月に1度行い、家族に説明し同意を得ている。また「気付きシート」には利用者の変化を細かく記入し、介護計画書の見直しの際に活用している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族対応ができない利用者への通院介助や、法人グループの医師による診療など、利用者・家族の要望に応じて柔軟に対応している。法人グループ経営の介護老人保健施設の利用や、訪問診療、２４時間対応可能な医療相談など事業所の多機能性を活かしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を大事にしている。原則は家族対応だが、時には職員によるかかりつけ医への通院介助を行っている。また家族の希望で週に1度の法人グループの訪問診療に変更を希望する利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や医療が必要となった場合には、入院や老人保健施設への入所を勧める方針であることを、入居時に本人、家族に説明している。本人の状況に応じ重度化や終末期に向けた方針の共有化の話し合いは現時点では行っていない。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を含む記録類は鍵のある事務所のロッカーに保管している。個人情報保護の取り決めを文書で、利用者・職員とも交わしている。ホーム内の掲示を検討している。職員は、利用者の耳元で声かけをしており、個別で穏やかな対応であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望があれば何度でも屋上や散歩など対応している。入浴も個別の希望に対応しており、毎日の入浴や夜間の入浴も希望に添って実施している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問調査当日は1ヶ月に1度の外食の日に当たり、車でレストランへ食事に出かけるグループと店屋物をとるグループに分かれて食事をした。外食で注文するのに職員は一人ひとりの好みや食事量を把握したうえで支援をしていた。他のユニットでは調理や配膳など、利用者が積極的に係わり職員と共に作業していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則隔日実施であるが、夏季や好みで毎日入浴を希望する利用者もいるので対応している。また自立度が高い利用者には夜間帯での入浴も対応している。拒否がある場合は、清拭やシャワー浴のみで対応する時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	箸配りやお茶入れ、洗い物拭き、洗濯たたみなど家庭的な日常の生活を大切にして、利用者に役割を担ってもらっている。誕生会や月1回の外食などを取り入れ、楽しく暮らしてもらえるよう支援している。職員は常に「ありがとう」の言葉がけを大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋上が専用スペースでいつでも行くことができ、気晴らしの場となっている。商店街の中にある環境を活かし、希望があれば職員が付き添っていつでも買い物や散歩などに出かけている。また、月1回の外食や花見、花火、四季の行事も取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階の玄関は見守りとチャイム対応で常時開放している。1階の玄関も開放していたが、徘徊事故があってからは家族や市とも相談して、利用者家族に文書で通知し、再発防止のために施錠している。居室の鍵を掛ける利用者はほとんどいないが、居室内から鍵を掛けられるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	１０月に消防署の協力を得て避難訓練を行う予定である。地域からの協力も得られるように、運営推進会議や町内会の避難訓練などを通じて、日頃より地域との関係づくりを今後の課題であると認識している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食材を業者に委託し、食材提供業者の管理栄養士が栄養バランスや量を考慮した献立を作成している。食事量や水分摂取量は「生活記録」に記録し、一人ひとりの状態を把握できるようにしている。糖尿病や嗜好についての代替食も用意している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は全てクッションフロアでバリアフリーとなっている。ホームの中心に台所があり、食事のにおいや音が自然に漂ってくる。共用の空間には、ソファーやベンチなどで利用者がくつろげるように工夫している。四季折々の行事の際には、利用者と手作りしたカレンダーや飾り物を居間に飾り、訪問調査日にはうさぎと月の貼り絵が飾られ、季節感を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や椅子、たんす、人形などが持ち込まれ、居心地良い空間が作られている。家族の写真やなじみの職員の写真なども飾られている。多くの方がベッドを持ち込んでいるが、中には布団の上げ下げを自分で行い、居室を広く使うなどそれぞれに工夫されている。		

グループホームシエル西横浜　1階

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▨ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	商店街の中にあるということもあり、利用者と気軽に買い物に行くようにホームのことを知って貰うよう努めている／運営理念は見える場所に掲げてある／理念に地域密着サービスの概念は反映されていない	○	商店街中の立地という地の利を活かして、地域密着型サービスを理念に取り入れて提供して行きたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時やミーティング等で話題には上るが、理念の共有に至っているとは言い難い	○	今一度理念を確認・把握し、共有から実践へ持って行けるように場を設けたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時に家族には話している／地域には開所時に説明して歩いたが、理解には至っていない	○	町内会・民生委員を通したり、直接アピールする等して地域の理解と協力を求めたい
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶や近所付き合いはなくはないが、近隣にとってホームの敷居はまだ高い／町内会員だが回覧版が回って来ない／地域の商店街を利用するように努めている	○	回覧版等確認しながら町内会からも近所付き合いを深めたい／商店街等地域の行事への参加も考えたい／地域にとってはまだまだ敷居が高いように感じられる為、オープンなイメージを近隣に浸透させたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・商店街の会員であり、敬老の日には赤飯や紅白饅頭の差し入れもある／行事もあるが、積極的に参加しているとは言い難い／商店街の祭りの見学をしている	○	閉鎖的な意識は否めず、地域への関わりが不足しており、孤立しがちな面も多い為、些細なことからでも積極的に関わりを持ちたい／様々な媒体を通して地域の催事の情報を把握したい／町内会への紙ごみ等のリサイクル運動に協力している

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室の実績あり／事業所内だけで完結しており、地域へ踏み出す余力がない	○	地域交流を通して、地域の社会資源のひとつとして機能して行ける可能性を探りたい
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ほとんどの職員で自己評価を行っており、評価の意義の理解と活用はなされているが、改善の余地はまだまだある／サービス評価を前提とした運営者・管理者・職員の合議はない	○	評価を基に気付いた点を改善計画として具体化し、ホーム改善に繋げたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は7月より行う	○	町内会長・民生委員とはコンタクトを取っている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市区担当者とは電話で、或いは横浜市グループホーム連絡会での交流がある	○	対等な関係とは言えず、関係を深め、サービスの実情を踏まえた連携を図って行きたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、理解を深めるよう努力しており、活用への支援の用意はある	○	職員の知見の向上の為に勉強会へ参加して行きたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待のないように注意し、虐待と誤解されることのないよう話し合っている	○	平成18年度から施行された高齢者虐待防止法を学ぶ機会を持ち、無意識の虐待のチェックや虐待の概念の共有化を行って行きたい

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	インフォームドコンセント（説明と同意）は入居時に十分に行われている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は自由に感情を表出しており、意見を述べている／思いを表現できにくい利用者の思いを汲み取るように心掛けている／対応できることは運営に反映している	○	外部へ表出する機会を設けたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来所時には日々の様子や健康状態を話している／月に一度、請求書と出納帳と共に一ヶ月の生活の様子をまとめたものと写真を送っている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の窓口があることは入居時に説明しており、横浜市福祉調整委員会等第三者委員会があることもお知らせしている／来所時に家族が話しやすい雰囲気づくりを心掛けている／家族に対して匿名でのアンケートも実施している	○	家族会を立ち上げたい／苦情等をリスクと考えず改善への素材として受け止め、活用して行きたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のカンファレンスや月毎の職員ミーティングで機会を設けている／日常業務の中でもそういう機会はある		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活サイクルを考慮し、ユニット毎の勤務体制を組んでいる／人員的に余裕のある際は外出等の利用者のニーズに応えられるようにしている／限られた職員で人員確保に努めている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑制している／異動や離職がある場合でも利用者の気持ちに配慮している	○	配慮が万全とは言えない為、異動や離職前後を中心に利用者を支援して行きたい

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5．人材の育成と支援				
19	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取り組みはあり、研修報告も回覧しているが充実しているとは言い難い／人員不足ということもあり研修参加がなかなかできない	○	研修への参加を奨励して行きたい／併せて自主的な参加も心掛けたい
20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・県のグループホーム連絡会に所属し、勉強会等に参加している／その中でのブロック会を交流の場として活用している／交換研修を行っている	○	交流をネットワークという社会資源にまで持って行きたい／交換研修は引き続き参加したい
21	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内の新年会・忘年会・新人歓迎会はある／個々の職員のストレス状況を把握できていない	○	事業所内に於いて、意識的な種々のスーパーバイザー・スーパーバイジーの機能を設けたい／休憩場所の確保ができればよい
22	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場状況は管理者からの報告で把握している／資格手当てがある	○	離職やモチベーションを上げる為に運営者と管理者、職員の関わりを密にして行きたい
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
23	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴しながら受容し、信頼関係を築き、主訴を引き出せるよう努めている		
24	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用を前提としてのみの対応に終始せず、傾聴と受容に努め、希望に副えるよう配慮している		

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを見極めながらホームの機能を説明し、併せて他の介護保険サービスやホームがあることも説明し、多様な選択肢を提供している		
26	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	仮入居期間を二週間程度設けて、本人や家族の意向を汲み取りながら入居を決定している／仮入居経過後、入居しなかったケースも実際にある		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の平均年齢が若い為、世代間格差は否めないが、日々の利用者との会話やレクで学ぶことが多く、励ましを受けることもある／本人の得意分野を活かす支援を考え、感謝を言葉にして表している	○	レクリエーションを含め、利用者と関わる時間をもっと作りたい
28	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	主に来所する家族に限定されがちであるが、利用者の情報を共有し、共に利用者を支え合う関係を築くことはできている	○	他の家族と関係醸成も行ってゆきたい
29	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	通院や理美容等の外出等を家族にお願いしたり、季節の行事等、機会を提供して家族との接点を持てるように配慮しているが、実際に来所されている家族は限られている	○	疎遠な家族と本人との関係への支援も取り組みたい
30	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居により関係が途切れないように配慮している／手紙や電話等の通信や面会の制限はしていない		
31	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格や人間関係を把握し、食事の際の座席位置に配慮している／修復がしにくくなるような会話の流れには仲介する場合もあるが、基本的には利用者同士の人間関係力を尊重し、仲介は最小限に控えるようにしている／孤立してしまう利用者もいる	○	孤立する利用者には職員の声掛け等の支援により関係が薄れないように努めたい／孤立してしまう利用者にはスキンシップ等寄り添うことで不安を軽減するよう努めている

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了した利用者に対して会いに行ったり、街中で会った時は近況を尋ねたりしている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や、1対1で話している場面で本人の思いや意向を探ったり、尋ねたりしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に把握に努めている／家族が居ない場合にはケースワーカーからの情報のみに限定されてしまう		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の一日の生活サイクルを日常生活の中で、言動やレク、記録、様々な場面を通して把握に努めている		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常業務の中で、気付きシートを用いてカンファレンスに時間を割いている／時には本人の意見を直接聞くこともあり、家族からの要望も参考にしつつ、それらを介護計画に反映している	○	家族の意見・要望を聞き、介護計画に反映している
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎の定期的な見直しの他に計画の見直しの必要性が生じた場合は、カンファレンスにより対応策を講ずるが、それに伴って介護計画書の変更を行ってない場合が多い	○	変更に生じて速やかに新たな計画書を作成し、現状に即したものにしたい

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録と、毎日の個別カンファレンスにより情報の共有に努め、介護計画の見直しに繋げている		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して暮らして行けるように柔軟に対応できるように努めている／家族の負担軽減にも配慮している		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察署や消防署とは連携を取っている／民生委員とは面識がある程度	○	キャラバンメイトやボランティア、学校等の社会資源の活用により、利用者のニーズに結び付けて行きたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所、話し合いも支援も行っていない	○	地域の福祉関係者との交流を通して、ニーズに応じて支援を検討して行きたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は行っていない	○	今後、困難事例について相談するなど協働をはたらきかけたい／地域密着型サービス提供のツールとして協働は必要と考えている
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望に応じてかかかりつけ医を決めている。／総合的な部分は往診等でホームのかかりつけ医に、専門科目は希望に応じてかかりつけ医を選択してもらっている／通院では家族との連携を取り、必要に応じて職員が対応している		

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームのかかりつけ医（運営者）の1週間に1度の往診を受けている／普段指示や助言を仰いでいる		
45	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医が24時間体制で協働できる環境がある為か看護職との協働はない／（医療加算を申請したいが、医師では対象とならないことに疑問を感じている）		
46	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院となった場合、ホームでの生活状況をサマリーとして伝え、病院側との情報交換を行うよう努めている／退院時には情報を病院側や家族より得るように努めている		
47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合やターミルナルケアについての具体的な話し合いは今の所ない	○	今後、話し合いの場を設け、個々の利用者の意向を踏まえ、予め方針の共有と実際の対応を考える必要がある
48	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できることとできないこととの見極めができているとは言い難い／かかりつけ医を交えたチーム支援までのレベルに達していない／利用者のレベルがまちまちである為、今後の重度化へ向けて準備はしている	○	重度化・ターミナルケアの勉強をして行きたい
49	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人のこれまでの生活の状況、注意事項等を情報として移住先の関係者に伝えている／家族や関係者間との情報交換によりスムースに住み替えができるように努めている		

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心に配慮しながら個々の状況に応じて声掛けや対応をしている／職員に利用者の個人情報をむやみに口外しないよう誓約書を書いてもらっている		
51	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お茶の時間や外出、外食、出前を行う時、本人の嗜好や希望を訊いており、何かをする時は本人の意思を確認するように努めている		様々な場面での自己決定は比較的できている
52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方は基本的に自由である／すぐに希望を実現できない場合も多少ある	○	基本的なニーズには応えられているが、利用者側にとっては職員側のペース優先と感じられることもなくはない為、そこに留意して行きたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を汲んで理美容を行っている／意思の表出が難しい利用者は家族等に相談し行っている／季節毎に衣替えを行っている／必要に応じて美容院等への同行も行っている		
54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は外注であり、希望は反映されにくいが、嫌いなものや食べらないものには配慮している／月1回の出前･外食の日に好きな物を食べられる／食事の準備は調理は難しく、共にできる部分は少ない(もやしのひげ取りや米研ぎ)が、後片付けに関しては下膳から始まり共にできる部分が多いが、これも当然個々のレベルに合わせての支援を行っている	○	固定観念に縛られず、共にできる部分を見つけて支援して行きたい
55	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の情況を勘案し、かかりつけ医とも相談しながら、居室にお菓子を所持したり、本人持ちの佃煮や煙草等、嗜好を楽しめるよう支援している		

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しにくい利用者のいるが、記録に因り、できるだけトイレでの排泄を支援している／女性職員しか受け付けない利用者には本人の意思を尊重して対応している／夜はリハパンやオムツでも、日中はできるだけ布パンツで過ごしてもらうように支援している／不快感を感じさせないように試行錯誤している／毎日排泄をチェックしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調と希望次第で毎日入浴することも可能だが、希望してという入浴ということは少なく、声掛けにより1日置きのペースで入浴してもらっている／拒否の強い利用者にはタイミングを見計らって声掛けする等して入浴支援に努めている／限界はあるが、入浴時間の希望は訊いている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状況をみて休息や静養を勧めている／昼夜逆転の利用者への対応はうまく行っていない／かかりつけ医と相談しながら安定剤や眠剤を活用した支援も行っている	○	昼夜逆転の利用者には日中の楽しみを見付けて、夜に寝て昼間は起きているという生活を送ってもらうよう支援したい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	もやしのひげ取り、米研ぎ、食器拭き、洗濯ものをたたむ、掃除の手伝いをしてもらうなど些細なことでも役割を持ってもらう／職員を交えて談笑している／散歩が好きな人はなるべく散歩してもらっている／できること、やりたいことはできるだけしてもらっている	○	利用者との共有時間を増やす為の工夫が必要と感じている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて所持金があり、欲しいものがあれば、必要に応じて一緒に買いに行けるよう支援している／金銭管理ができなくとも買い物のレジの精算時に支払いをしてもらう等の支援を行っている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良ければ外出を支援しており、必要に応じて車椅子やシルバーカーを利用している／必ずしも馴染みの店や場所という希望には応じられていない	○	すぐ近くであっても、一人でも多くの外出支援に努めたい／ホームの屋上も活用できる
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	主に車でだが、天気を選んで動物園や大きな公園に出掛けている／家族との外出も自由である／いつもと違った美味しいものを食べたいという利用者の家族には外食を勧めている		

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合もあるが、本人の希望で電話はいつでも利用できる環境にある／手紙を書くまでの利用者はいない		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を制限していない為、面会は自由であり、実際深夜に来所する家族もいる／居室でゆっくり面会できるように支援している／最近はないが、孫が泊まりに来ていたこともある		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやカンファの時に身体拘束に繋がるケアがないか確認し合っている／常に禁身体拘束を意識してケアを行っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当初は施錠はなかったが、利用者が外に出て行ってしまい翌日発見される事故があり、市の監査時に相談し、安全面を重視し現在はやむを得ず施錠している／出て行こうとする気配に注意しているが、チャイム音で気付く等万全ではない	○	希望する利用者には居室の窓を開けて過ごしてもらうこともある／自由に歩きたい利用者もおり、認知症への弊害という観点からも、施錠しないという利点は認識している
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホーム内が狭い為、比較的見守りは容易であり、プライバシーに留意しながら安全に配慮している／夜間は当直により定時の巡視を行っている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に合わせている面もあるが、特定の利用者が何でも触ったり持って行ったりしてしまう為、危険なものや注意の必要なものは管理せざるを得ない状況である／興味を示さないものや危険でないものはそのまま置いてある／個々の能力に応じて管理できるものは管理してもらうよう努めている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書（同一書式）は常に書くように心掛け、対応策を考え、職員全員が目を通すようにファイリングしてある／各リスク項目に対してのマニュアルがある	○	防止の為に勉強会をして行きたい

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり、指導しているが、徹底されているとは言い難い	○	今後、心肺蘇生法等、応急手当の訓練を行ったり、救命講習の受講を行って行きたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員に年に一度来てもらい、避難経路、消火器の扱い方を指導してもらっている／地域との協働に拠る避難訓練は未実施／非常食や備品は準備していない	○	町内会の避難訓練に参加して行きたい／非常食や備品を準備したい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについて入居時に説明している／リスクの多い利用者に関しては個別の対応策を話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の疾患等を把握し、顔色や様子の把握に努め、バイタルチェックを行う等している／体調の変化は記録に落とし情報の共有に努め、常にかかりつけ医に報告し、指示を仰いでいる		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬票があり、利用者が現在服薬している薬が分かるようにしてある／内服しても改善が見られない場合はかかりつけ医に相談している	○	服薬票はあるが、薬の目的と副作用等についての把握と理解が万全とは言い難い為、勉強会を行いたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳を取り入れた飲み物をお茶の時間に提供している／食事も福祉メニューとして食物繊維の多いものが取り入れられている／運動不足の為の便秘は考えられる／水分摂取量もチェックしている	○	便秘による認知症の周辺症状等への影響を考えると予防の為になるべく薬に頼らない予防支援に努めたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個別に習慣や意向、体調や口臭を踏まえた声掛けを行っている／せめてうがいだけでもしてもらえるように努めている／夕食後は義歯を消毒する等、利用者のレベルに応じて支援している		

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランス、カロリーについては外注の献立の為、そちらに依拠している／職員が同じテーブルに付き、摂取量や水分量を把握している／咀嚼レベルに応じてお粥・ミキサー食・肉禁・魚禁等にも対応している／水分が不足しがちであればゼリー等も活用している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応のマニュアルがある／行政からの情報を目に見える所に掲示している／手洗い・うがいの励行とマスクや消毒薬等により予防に努めている／インフルエンザの予防接種の機会がある	○	感染症対策のマニュアルはあるが、周知徹底の水準には達していない為、勉強会等により知見を深めて行きたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	当直帯に俎や布巾、コップ等を消毒している／消費期限や賞味期限には注意している／食器は食洗器で洗い、衛生管理している／衛生管理に対するマニュアルがある／傷みやすい食材は調理時にチェックしている		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外壁にグループホームの看板を掲げており、「入り口はこちら」と分かりやすくしている／マンション内の為、呼び出し機の前に案内を貼っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快にならないように適度な明るさと音に調整している／花を飾ったり、季節の行事関連の飾りや利用者の行事等の写真を壁に貼るなどして季節感を意識してもらっている	○	過剰な飾り付けになっている場合がある為、気を付けたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらもテレビ前にソファーを置き、独りで過ごせる空間を設けている／リビングでは数人で複数に分かれて座ることもできる／気の合う利用者同士が集まって談笑している		

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険防止に配慮しながら各利用者が、家具やテレビ等、使い慣れた馴染みのものや好みのものを持ち込んでいる／レクで塗った絵を居室に貼って楽しんでいる利用者もいる		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	喚起は24時間空調設備により行われており、毎朝、清掃時に窓を開放し、直接喚起を行っている／利用者の体感温度に配慮し、着衣による調整を促したり、必要に応じてエアコンや加湿器を使用している／自分でエアコンを入れる方の居室には注意を払っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体的にバリアフリーになっており、壁・トイレ・浴室に手摺りを付けている／動線に留意し、家具の置き場を考え、整理に努めている	○	トイレが介助するに手狭で、車椅子も入れられない為、必要時には注意が必要である／浴室の手摺りも考慮したい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には名札を掲げ、トイレと分かる位置に表示してある／個々のレベルに合わせた支援に努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外柵に花を飾り、水遣りをしたり、草取りをしたり、植え替えも職員と利用者で行っている／ベランダに花がない／屋上はベンチとテーブルが置いてあり、天気の良い日には日光浴を楽しんだり、おやつを食べたり、花火鑑賞に利用したりと気分転換の場となっている		

グループホームシエル西横浜　1階

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームシエル西横浜　1階

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者と職員が共に楽しく過ごし、笑いの絶えないホームである／利用者はのんびりと自分らしく生活できている／何事も強要されない点／商店街の中や公園が近いという立地を活かしたい／屋上があって日常活用できる

グループホームシエル西横浜　2階

（様式１）

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム理念の中に、地域との係わりについてあげていない。	○	地域との係わりや取り組みを含めた理念について話し合い、新たに再考する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に目に入る場所に掲示してあり、また日々のサービス提供に生かされている。	○	地域との係わりや、生活を踏まえたうえで理念を再考し、実践していく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域との係わりについての理念がなく、取り組めていない。	○	理念を再考後、実践していく。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	商店街に買い物や外出に出向き、職員、利用者様共々顔を覚えていただき、お互い挨拶したりしている。	○	まだ挨拶や会話が少ないようなので、今よりも積極的に声掛けや挨拶をして係わりを深める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会費等は納めており、一応は参加している形だが、会合や回覧板などの係わりがない。	○	積極的に自治会や地域活動に参加し、交流を深めていく。

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員数が不足しており、取り組めていない。	○	職員増加に伴い、地域との接触を増やし、介護相談など、取り組んでいきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義は理解しているが、評価を活かし切れていない	○	さらに理解を深め、活用し改善していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議がまだ開催できていない。	○	７月中の開催予定。　会議での意見を活かしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村関係者との係わりが取れていない。	○	今後、担当者との関係を濃くしていき、向上に取り組む。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々で勉強していると思われるが、どこまで理解しているか、などが不明。	○	制度についての理解が浅いので講習に参加したり、施設内で勉強会を開いたりする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から心掛けており、防止に努めている。 個々で勉強している。	○	法律全てを理解しきれているわけではないので、勉強会など開く。

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 　契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、さらに不安な点や疑問点などを伺い、理解を得て納得していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 　利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員、ご自分の家族には不満や苦情を表す機会はあるが、ホーム関係者以外の外部の人に表す機会はない。	○	家族が窓口となっていない利用者さんの場合は保護担当や後見人との話し合いを持つ、などする。
14	○家族等への報告 　事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、一ヶ月の生活の様子をまとめて家族に送付している。　また、急変など、必要があればその都度連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 　家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施している。　面会時にお話しを伺っている。	○	家族会や、運営推進会議を活かし、ホーム運営に反映していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 　運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ミーティングを行い話し合う機会を設けている。　緊急に対応を考える時など、随時話しをする。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 　利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	調整は行っているが職員数が不足している。	○	職員を増員していき、細かいところまで対応できるようにしていく。

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要最小限に抑えている。		
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報などファイルにまとめてありいつでも閲覧できるようになっているが、人手不足で研修を受ける機会が限られている。	○	人員を増やし機会を確保。その上で育成計画を立てる。研修を受けたらレポートの提出し、他の職員にも伝えていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や連絡会に参加している。	○	その内容を他の職員にも伝わるようにする。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会、新人歓迎会を開催。	○	職員数を増やし、日ごろの負担を軽減する。　福利厚生の充実。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者からの働きかけは特にない。	○	賞与の充実。　運営者の来所回数を増やし、話し合う機会を増やす。

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
23	○初期に築く本人との信頼関係 　相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、話を聞き　相手の立場で考え、必要としている事や不安に思っていること伺い、対応を考え、より良い信頼関係を築いていけるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 　相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時に話をよく伺い、入居後も話を伺う機会をより多く持てるようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 　相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族によくお話しを伺い　スタッフでも話し合いを重ね　必要としている支援を行えるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 　本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や本人からよく話を伺い　一度とは限らず何度でも見学していただいたり　入居後馴染まれるまでのアフターケアにも力を入れている。またお試し入居もできる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 　職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクや食事など日常生活を通して会話の中や行動から学びや支えの場面がある。		

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とまめに連絡を取り　電話や面会時に情報交換している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月１回　ご本人の様子を書面にまとめ　ご家族に送付している。ご本人とのお話しの仲で家族の話題を多くとりあげるようにしている。　面会時間を自由にし　いつでも会えるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・宗教など自由にしていただいている。手紙は代筆を行ったりしている。知人の訪問はご家族に確認を取りつつ受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係を把握できており　その上での仲介や食事の席の席替えをおこなっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の意向に従事。新しい入居先に面会に行ったりしている。		

グループホームシエル西横浜　2階

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動から　意向の把握に努め　スタッフで常にカンファレンスを行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日常会話や家族の話から把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一ヶ月毎の様子をまとめており　総合的に把握しやすい。少しの変化にもその都度カンファレンスを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	こまめなカンファレンスの実地。普段の会話からご本人の意向の把握に努め　それを反映したケアプランを作成している。	○	ケアプランを立てる際　家族の方に改めてご意見を伺えるような機会をもうける。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常で　気付いた事がケアプランにあがっているか　変更が必要でないか　日々のカンファレンスで検討している。		

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 　日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな気付きはその都度記録し　日々のカンファレンスで取り上げ　情報を共有し　ケアプランに活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 　本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の際にご家族での対応が難しい場合に事業所で通院に付き添ったり、ほぼ週1回かかりつけ医の往診があり、緊急時にはかかりつけ医にいつでも連絡が取れ、場合によっては往診もしてもらえるなど、医療面での柔軟な対応が出来ている。　外部のヘルパーを使って外出されている方がいたり、運転のできる職員がいるときは多少の遠出も可能。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 　本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て消防訓練の実地などしているが、その他の面では協力が不足している。	○	運営推進会議を通して現状を知っていただき　協力をお願いしていく。
41	○他のサービスの活用支援 　本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域資源との協力が不足しており、支援できていない。	○	運営推進会議を通して現状を知っていただき　協力をお願いしていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 　本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域資源との協力が不足しており、共同できていない。	○	運営推進会議を通して現状を知っていただき　協力をお願いしていく。

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 　本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営者が医師であり　基本的にはかかりつけ医であるが　希望があったり必要であれば　他の医療機関も受診していただき　その受診先とも連絡を密に取るようにしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 　専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	経営者がかかりつけ医であり老人保健施設の経営者でもあるため　認知症に関しては理解が深い。		
45	○看護職との協働 　利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護士との連携はないが　経営者（Ｄｒ．）に細かな相談ができており　週一回の往診も行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 　利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のドクターや看護士とも細かな情報交換を行い　早期退院に向けて努力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族がいないご利用者も多く　細かな話し合いは行えていない。	○	ご本人やご家族と話し合いの機会を持ち　具体的な方針を決めていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 　重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	検討　準備が出来ていない。	○	「できること・できないこと」をはっきりし　検討・準備していく。

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを最小限にするよう　ホーム内での様子などをまとめ送付するなどの情報提供を行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会話には最新の注意をはらい　他者に気付かれないよう排泄や清潔の保持を促したりしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からコミュニケーションをとり　考えや好き嫌いを把握し　自己決定や希望を言い出しやすいよう対応している。入浴や外出は強制せず　できるだけ本人の意思を尊重している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人の希望に沿うよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容も　ご本人の希望の店に行ってもらっている。		

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	身体や気分の状況にあわせ　できる範囲でのお手伝いをお願いしている。		
55	○本人の嗜好の支援 　本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調や金銭状況にあわせてではあるが　お酒・たばこの規制はしておらず　ほぼ希望どおりに　楽しんでいただいている。		
56	○気持よい排泄の支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に対して不安なく過ごしていただけるよう必要な方は排泄パターンを把握し　自尊心に考慮した上で誘導したりしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ希望どおりに入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調考慮の上　昼夜逆転を防ぎ　夜グッスリ眠れるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の意見や、自発的な申し出で音楽を楽しんだり外出したり、と気晴らしに努めている。 こちらから声をかけ参加を促したりもしている。		

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上でご自分で管理可能な方は本人管理されている。　本人管理が難しい方も希望があれば小口の現金をお渡しし、その範囲内で自由に使っていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく本人の希望に沿うように支援している。時間に余裕のない時や長距離歩行の困難な方には屋上など利用していただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と外出、外泊されている方もいる。　外部のヘルパーを利用して外出をされてる方もいらっしゃる。　また運転のできる職員がいる時は車で遠出する事もある。	○	計画的な遠出や外出は少ないので増やしていく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。　ご家族以外の方とのやり取りはご家族に確認、了承の上でおこなっていただいている。　またコードレス電話の子機を居室に持ち込んでお話しできるのでプライバシーにも配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を制限しておらず、宿泊していくご家族もいる。　ご家族以外の訪問等は念のためご家族に確認を取り了承を得てから訪問いただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル化されており、身体拘束を行っていない。		

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	都心で暮らしていた利用者様が多く、防犯意識もあり利用者様から鍵が開いている事を指摘される事もあるが、基本的には開錠している。　居室の鍵は希望のある利用者様には渡して本人で管理していただいているので本人が施錠している事があるが、それ以外は開錠してある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に居場所や様子には利用者様が嫌悪感を抱かないようにしながら配慮し、把握に努めているが、建物の構造上、死角が多いので立位や歩行の不安定な方には家族の同意を得て鈴をつけさせていただき動きの把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご自分で管理可能な方には本人管理にて自由に使っていただいている。　そうでない方はご家族などの同意の上でこちらでお預りさせていただいたり、置き場所や数をチェックさせていただきながら、自由に使っていただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書は整理保存されており、それを元に防止策を検討している。窒息時や行方不明時のマニュアルがあり、火災時については消防署より指導していただいた。	○	周知徹底しきれていないので勉強会など実施していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル化されており、一部の職員は救命救急訓練を受けるなどしているが、他の職員まで行き渡っていない。	○	勉強会や外部の研修（救命救急講座等）への全職員参加。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	過去に消防署の方による訓練実施はあったが、期間がだいぶたっており新しい職員も増えている。地域との連携があまり取れていないので協力が得られていない。	○	運営推進会議を通して協力を得られるような体制を整えていく。新しい職員も含めて訓練を行っていく。

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	カンファレンスなどを通して状況を把握し、対応を話し合い、実行に移している。ご家族には面会時に話したり、毎月送付しているご利用者様のご様子などに手紙をつけて説明したりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定はやっていないが、日々の様子観察を徹底し、少しの異変でも記録に残し全職員に申し送るようにしている。　必要であれば掛かりつけ医に連絡し指示を仰ぐ体制が出来ている。緊急でなくても往診時に医師に伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者様の内服薬管理表があり、職員はいつでも閲覧可能で情報も随時更新し、全職員に申し送っているが、かかりつけ医からの連絡が遅れて情報の更新が滞る時がある。　また、全職員が完全に把握し切れているわけではない。	○	かかりつけ医に更に協力を要請する。　勉強会など開く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	専門の業者の配食材サービスを使っており、考慮されたメニューになっている。　水分やヨーグルト、食物繊維豊富な果物など勧めている。　腹部マッサージなど軽い運動を行っている。　ご本人の希望があれば体調など鑑みて下剤や浣腸などで対応することもある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの手順がわからない方など、介助が必要な方には必要に応じた支援をしている。　自尊心が強い利用者様の自尊心を尊重するあまり、支援を拒否されるとそのままになってしまっている。	○	自尊心を傷つけずに口腔ケアを支援していく方法を考える。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者の配食材サービスを使っており、栄養バランスは取れている。　食事量、水分量は記録されており、また個々の嚥下の状態、噛む力などに合わせて刻み食やお粥などにして提供している。それでも摂取が難しい場合は好みの物や栄養補助食品のゼリーなど、口にしやすいと思われるものを勧めている。		

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種や日常的に手洗いやうがいをマメに行うなどしている。　感染症対策のマニュアルがあるが、一部の感染症にしか対応しておらず、周知徹底もなされていない。	○	マニュアル化を勧めていく。　勉強会などで周知徹底に努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は夜勤者により毎晩消毒されている。 食材は専門の配食材業者の物を使っており常に新鮮であり、使う段階で異常があればその食材は廃棄、もしくは業者に返還している。　おやつ等、業者扱い以外の物は品物に記載されている賞味期限、保存方法に従い正しく管理されている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	賃貸マンション内のため、限界があるが、建物周囲に花を植えたり、親しみやすい看板を掲げたりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎない照明や気密性の高いサッシなどで外部の騒音を遮ったりと、配慮している。食堂やホール部分には季節感のある飾り付け(七夕やお正月など）や、ゴザを敷いたりしている。　また、使われている家具や調度品は極普通なもの。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の狭さから限界があるが、テーブルやソファーなどの配置で工夫し、仲の良い方同士でテーブルに座って歓談されていたり、ソファーでゆっくりテレビをみたり、新聞を読みながらフットマッサージ器を利用されたりと、思い思いに過ごされている。		

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が以前から使っていたなじみの物を持ち込んで使用していただいてる。　特に制限はしていないので、仏壇からベット、布団、時計やテレビラジオ等の家電製品や細々とした生活用品に至るまで、その人その人の思いの詰まった物や使い慣れた物を持ち込んでいる。　　持ち込みすぎて入りきれない場合はご家族含めて相談し、引き上げてもらうなどしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペースに関しては２４時間作動の換気扇がある。また毎朝窓を開けて換気している。温度調節は利用者さんの様子を伺いながら調節している。　個室に関してはご自分でできる方にはお任せしているが、時折様子を伺いに訪室し、利用者様の希望を聞きつつ調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に手すりやそれに変わる物などを設置、安全に移動、または利用できるようにしている。 また、日用品は安全を考慮したうえで利用者様に不便がなく使っていただけるように配置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室や、トイレなどの扉にネームプレートをかけ、分かりやすくしている。　日付の入ったポスターや写真などは日付の失念、混乱を招く事があるので一定の時期が過ぎたら排除している。タオル掛けに名前をつけ自分の場所を把握していただいている。食堂の席が暗黙の了解で決まっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物外周の花壇に水遣りに出られたり、各居室からベランダに自由に出入りして外を眺めたり布団を干したりされている。　屋上を利用して外気よくを行ったり花火鑑賞を行ったりしている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない

グループホームシエル西横浜　2階

項　　目		取 り 組 み の 成 果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ○ ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・平坦な商店街の中にあるので利用者様の足腰に負担が少なく買い物や散歩に出る事が出来る。
・法人の代表者が開業医なので２４時間３６５日、医療的な対応が可能。
・都会暮らしをしてきた利用者様には馴染みやすい周辺環境。
・ホームが入居しているマンションの屋上がホームの占有施設であり、いつでも眺めの良い景色を楽しめる。
・日々ゆっくり穏やかに過ごせるように強制的なことは避け、介護と言うよりも同居人や家族のような視点で利用者様の生活をサポートしています。